

<司令官ケネス・メイナー大佐の2021年2月21日のビデオメッセージ（要約）>

受難節（レント）を迎えました。ゴルゴダの丘を通過してイースターの復活へと進まれたイエス様に心を向けましょう。アメリカンフットボールの決勝戦であるスーパーボウルは9か国語で世界中に中継されています。その中継を見ながら、1964年に起きた出来事を思い出していました。当時5歳だったわたしは、ラジオの前にミルクとクッキーを用意して、クリーヴランド・ブラウンズの決勝戦を応援しました。そして、なんと勝利したのです！まるで競技場にいるような感動を覚えました。翌年、再びブラウンズが決勝戦に臨みました。私はラジオの前にミルクとクッキーを用意すれば、ブラウンズがまた勝つに違いないと思い、準備しました。しかし、同じ勝利は起きませんでした。「祭壇を築く」をテーマにメッセージをしていますが、どうしたら、わたしたちは心の祭壇に火をともし続けることができるでしょうか？ 必要なのは、信仰です。ヘブライ人への手紙11:6に「信仰がなければ神に喜ばれることはできない」とある通りです。この御言葉に注意するなら、わたしたちは信仰によって神を喜ばせることができることが、わかります。ヘブライ10:32-39に「自分の確信を捨ててはいけません。この確信には大きな報いがあります」「わたしの正しい者は信仰によって生きる」「わたしたちは信仰によって命を確保する者です」とあります。神様は、わたしたちに信仰という賜物を与えてくださいました。しかし、信仰があれば、なんでもすべて思い通りに行く、というわけではありません。わたしは子どもの時、ラジオの前にミルクとクッキーを用意すればブラウンズが勝つと思込んでいました。ヘブライ11章を見ると、勇敢な信仰をあらわした人々の姿が記されています。彼らは信仰のゆえに迫害を受け、中には殉教の死を遂げた人もいました。しかし、彼らの心の祭壇には信仰の火が燃やされていたので、様々な試練や困難に直面しても、神を賛美することができたのです。「神の御心を行って約束されたものを受けるためには、忍耐が必要なのです」という御言葉を心に留めましょう。困難な時こそ、神は決して自分を見捨てることがない、という信仰の確信を持ち続けましょう。神は、約束を必ず果たしてくださる、という信仰の確信は、決して裏切られることのない確信なのです。